

第14回 環境放射能除染研究発表会 企画セッション

減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク会合(第11回)

中間貯蔵事業情報センターの取組等

中間貯蔵・環境安全事業株式会社

中間貯蔵管理センター

地域連携・広報課 飯沼 秀敏

1 中間貯蔵施設・展示室の見学

■ 中間貯蔵事業情報センターのミッション

除去土壌等の最終処分や復興再生利用の必要性・安全性等について具体的に知っていただき、放射線の影響に係るご心配・ご懸念にお応えし、風評払拭につながるよう、理解醸成を進めていく。

■ 中間貯蔵施設の見学

【東電が見える高台】

福島第一原子力発電所や土壌貯蔵施設、地域の想いなどを説明



【空間線量率の測定】

放射性物質を含む土壌を貯蔵する施設の上で空間線量率を測定



■ 展示室見学(ガイドツアー)



【ガイダンス】

中間貯蔵事業の全体像がわかる映像を視聴。現地見学時実施

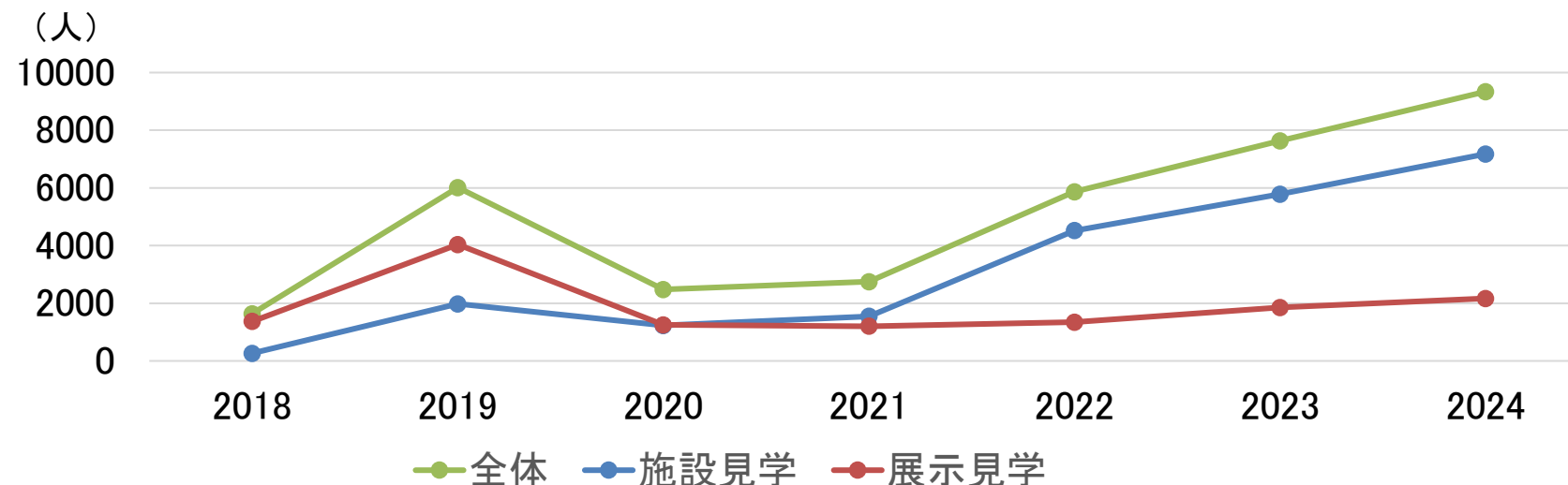


【スタッフによる解説】

ガイダンス含めて30分から1時間で展示解説

2 見学者の推移

■ 見学者数の年次推移



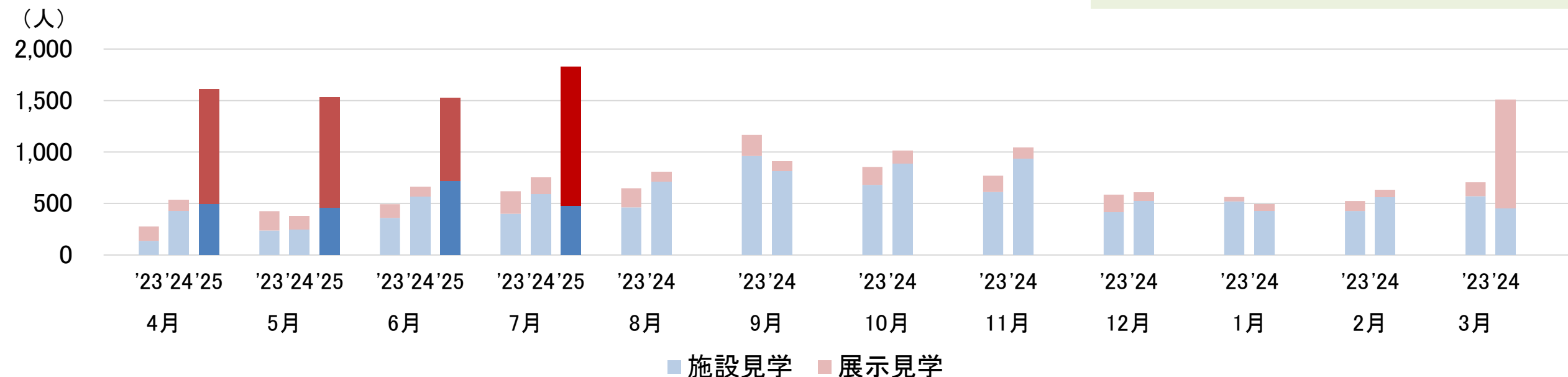
○ 年次推移

- ・右肩上がりで増加傾向
- ・2020年度を境に、展示見学者数と施設見学者数が逆転

○ 月別推移

- ・9～11月が見学のハイ・シーズン
- ・2025年3月に情報センターが移転・リニューアルして以降、展示見学者数と施設見学者数が再逆転

■ 見学者数の月別推移



3 見学者の属性

■ 施設見学者の属性（2025年4～7月実績）

○ 見学団体数：156団体・見学者数：2,152人 【参考】展示見学（情報センターのみ）：4,347人

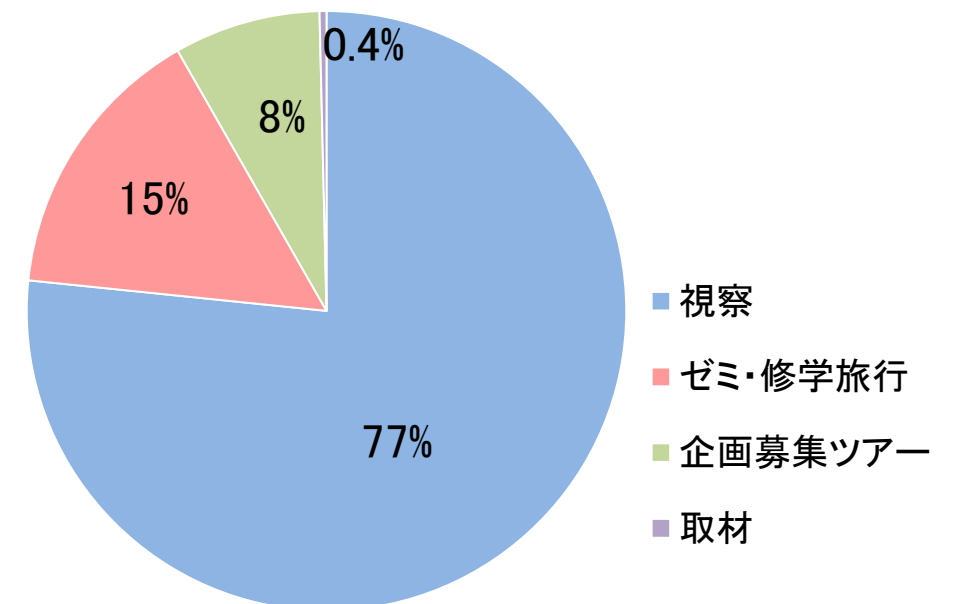
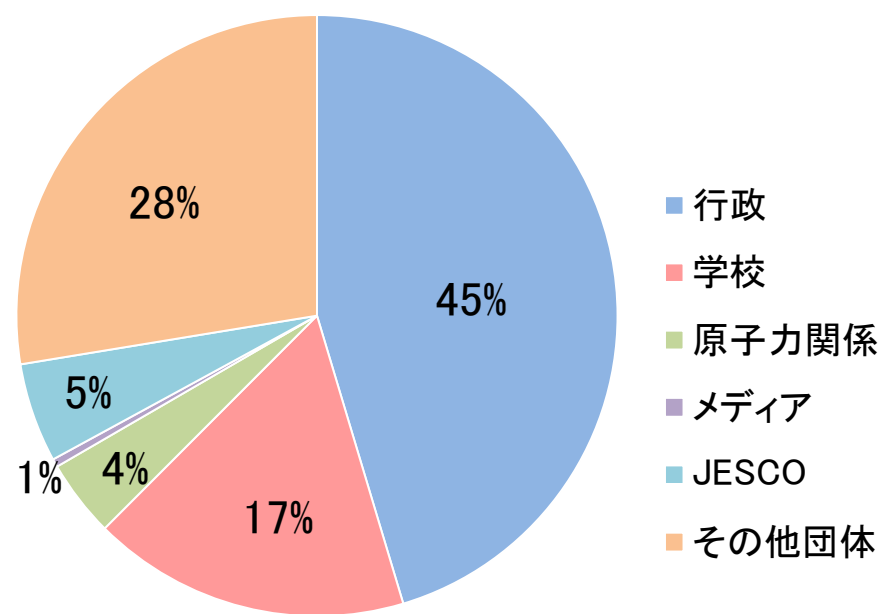
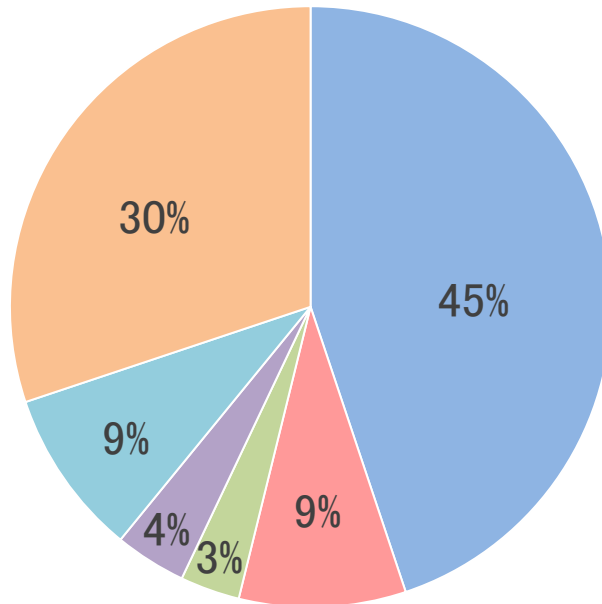
○ 団体属性別割合

○ 目的別割合

（団体数ベース）

（見学者数ベース）

（見学者数ベース）



見学者ベースでは、「行政」が約5割、「学校」が約2割を占めている。

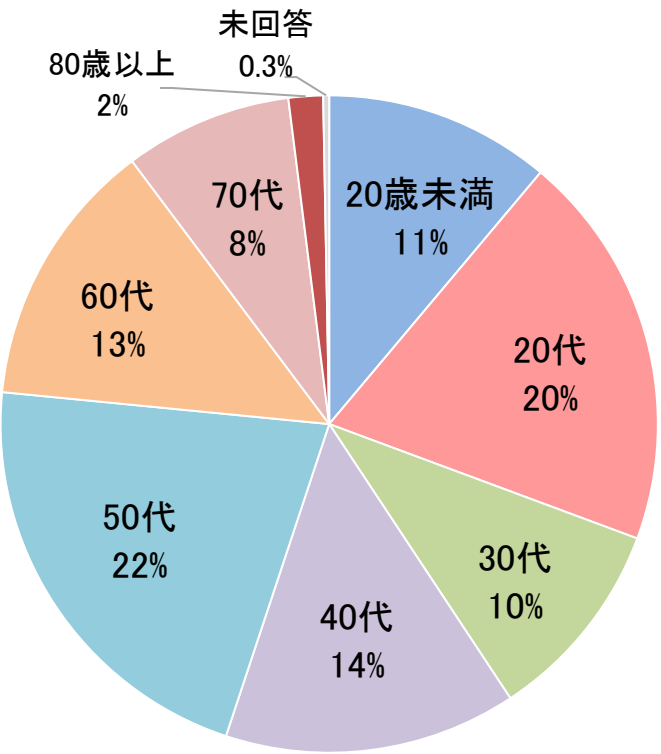
行政・各種団体による「視察」が約8割、学校による「ゼミ・修学旅行」が2割弱を占めている。

4 アンケートの集計・分析

■ アンケート回答者

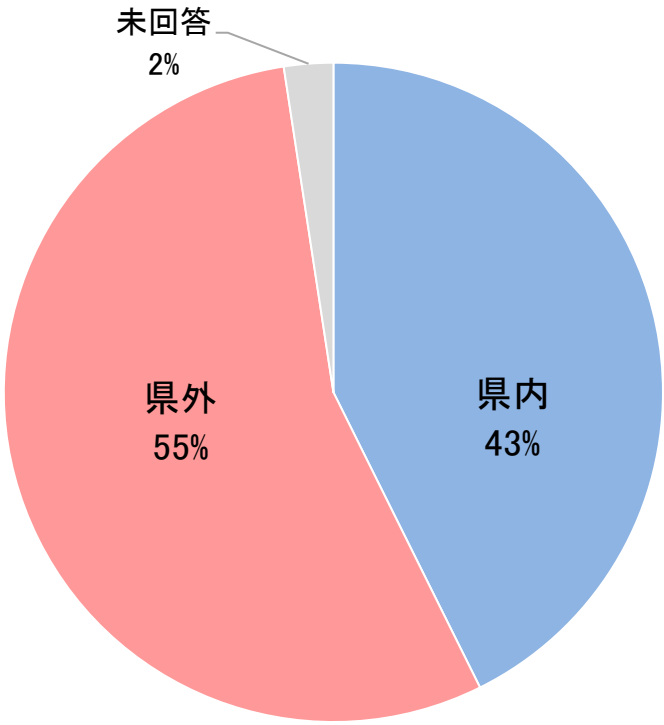
○ 対象期間:2025.4月～2025.7月 ○ 回答者:3,066名(施設見学:1,002名、展示のみ:2,064名) ○ 回答率:47.2%

○ 年齢構成



年代に偏りがなく、各年代とも1～2割で構成

○ 住まい



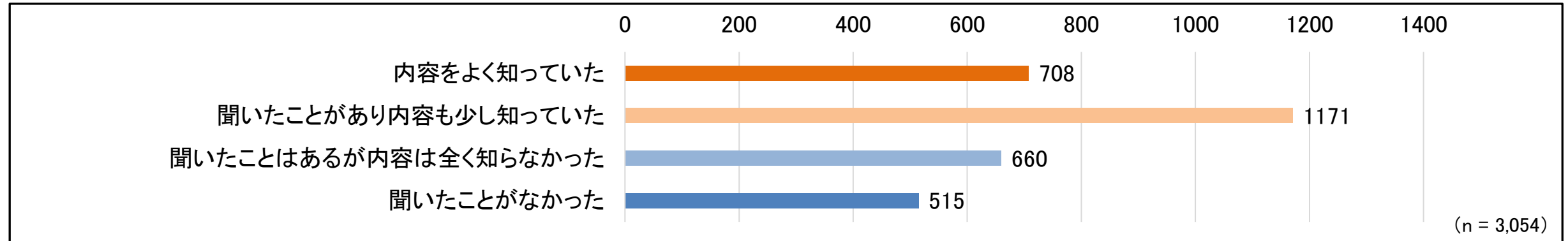
福島県内が約4割、首都圏が約3割を占める。

地域	人数	割合
北海道地方	28	0.9%
東北地方(福島県除く)	235	7.7%
関東地方	993	32.4%
中部地方	154	5.0%
近畿地方	163	5.3%
中国地方	6	0.2%
四国地方	4	0.1%
九州地方	50	1.6%
海外(訪日・在日)	3	0.1%
県外(未回答)	48	1.6%
福島県	1,308	42.7%
未回答	74	2.4%
計	3,066	

4 アンケートの集計・分析

■ 除去土壌等の再生利用・最終処分に関する質問

- Q3－1 除去土壌等が中間貯蔵開始後30年以内に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。 **(認知度)**



	全体	県内	県外	20歳未満・20代	30代・40代	50代・60代	70代・80歳以上	施設見学	展示見学
内容をよく知っていた	23%	31%	17%	14%	20%	32%	29%	16%	26%
聞いたことがあり内容も少し知っていた	38%	44%	34%	35%	36%	41%	47%	35%	40%
聞いたことはあるが内容は全く知らなかった	22%	17%	25%	22%	26%	19%	17%	26%	20%
聞いたことがなかった	17%	7%	24%	29%	18%	8%	7%	23%	14%

(n =) (3,054)

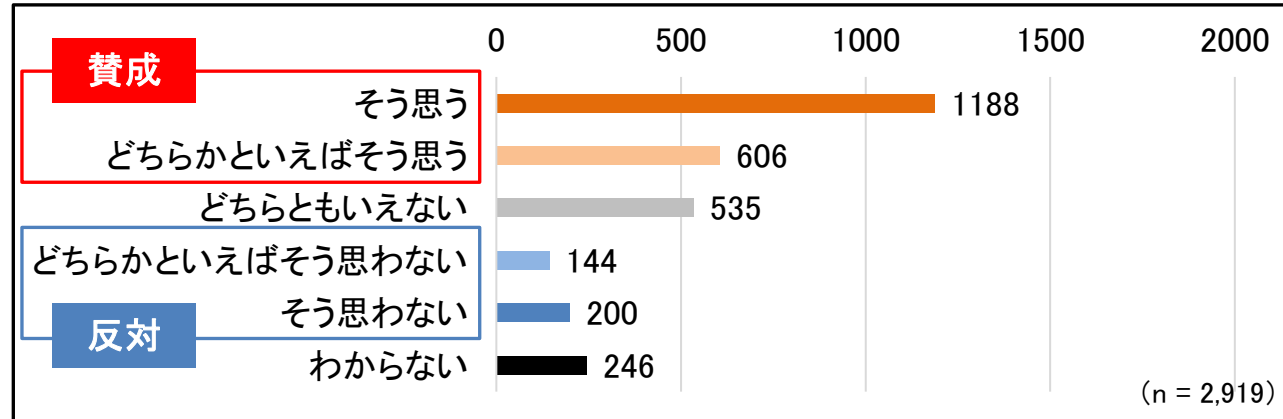
全体の認知度は61%。県内の認知度(75%)に対して県外の認知度(51%)は低い。年代別では20歳未満・20代の認知度が低い。

4 アンケートの集計・分析

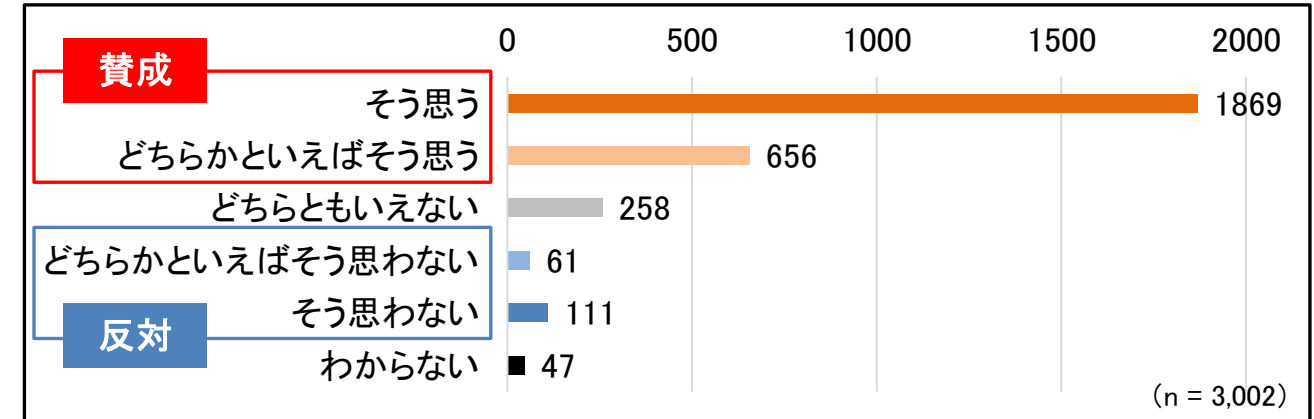
■ 除去土壌等の再生利用・最終処分に関する質問

● Q3-2 除去土壌の再生利用をする必要があると思いますか。 **(必要性)**

【見学前】



【見学後】



		全体	県内	県外	20歳未満・20代	30代・40代	50代・60代	70代・80歳以上	施設見学	展示見学
そう思う・どちらかといえばそう思う	見学前	61%	72%	53%	59%	60%	67%	54%	56%	64%
	見学後	84%	86%	82%	89%	83%	85%	70%	84%	84%
見学後 - 見学前（理解醸成の度合い）		23%	15%	29%	30%	24%	18%	16%	28%	20%

（地域） 見学前の『賛成』割合は、『県内＞県外』となっているが、見学後では、県内・県外でほぼ同じ割合となっている。

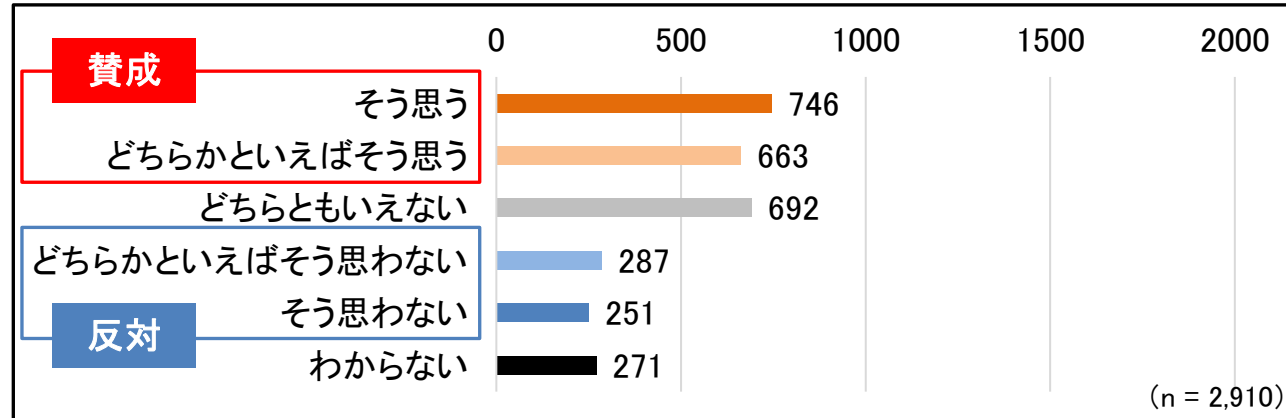
（年代） 若い世代ほど、見学後の『賛成』の割合が増えるが、高い年代では、『賛成』の割合が大きく増えていない。

4 アンケートの集計・分析

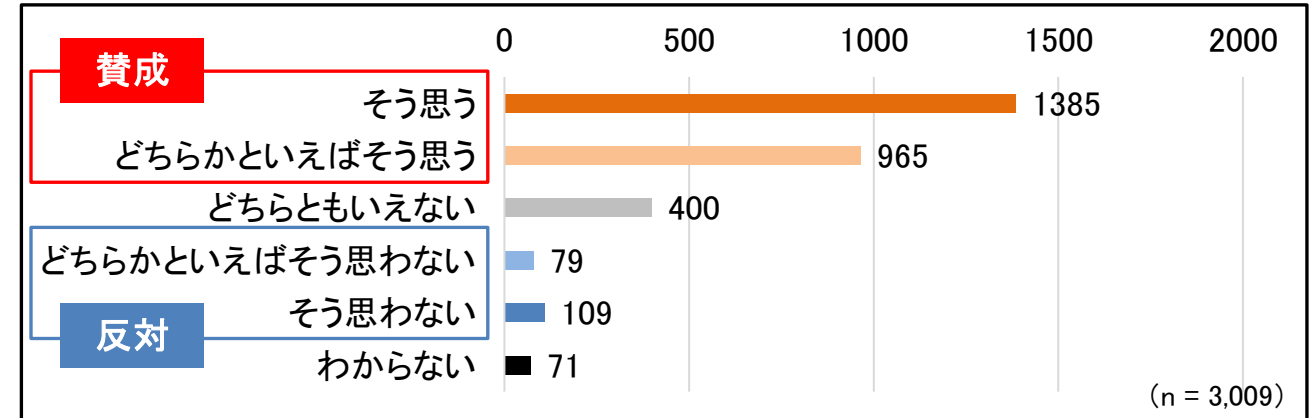
■ 除去土壌等の再生利用・最終処分に関する質問

● Q3-3 除去土壌の再生利用は安全だと思いますか。 (安全性)

【見学前】



【見学後】



		全体	県内	県外	20歳未満・20代	30代・40代	50代・60代	70代・80歳以上	施設見学	展示見学
そう思う・どちらかといえばそう思う	見学前	48%	60%	39%	40%	50%	56%	43%	40%	52%
	見学後	78%	81%	75%	81%	80%	79%	60%	80%	77%
見学後 - 見学前 (理解醸成の度合い)		30%	21%	36%	41%	30%	23%	17%	39%	25%

・前の質問〔必要性〕と同じ傾向がみられる。

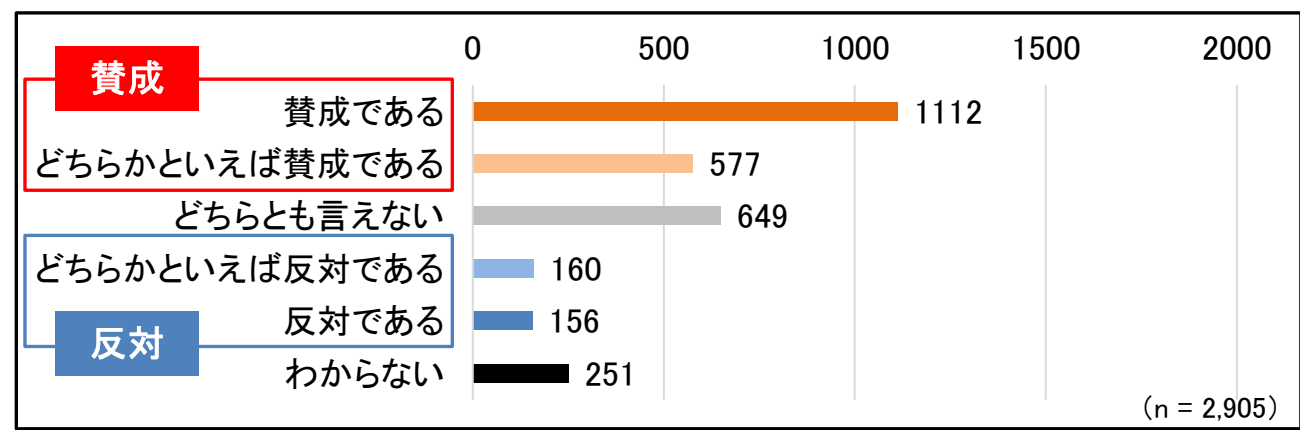
・展示のみの見学より、中間貯蔵施設の現地見学の方が理解醸成の度合いが高い。 ⇒ 空間線量率の測定体験の効果と推測

4 アンケートの集計・分析

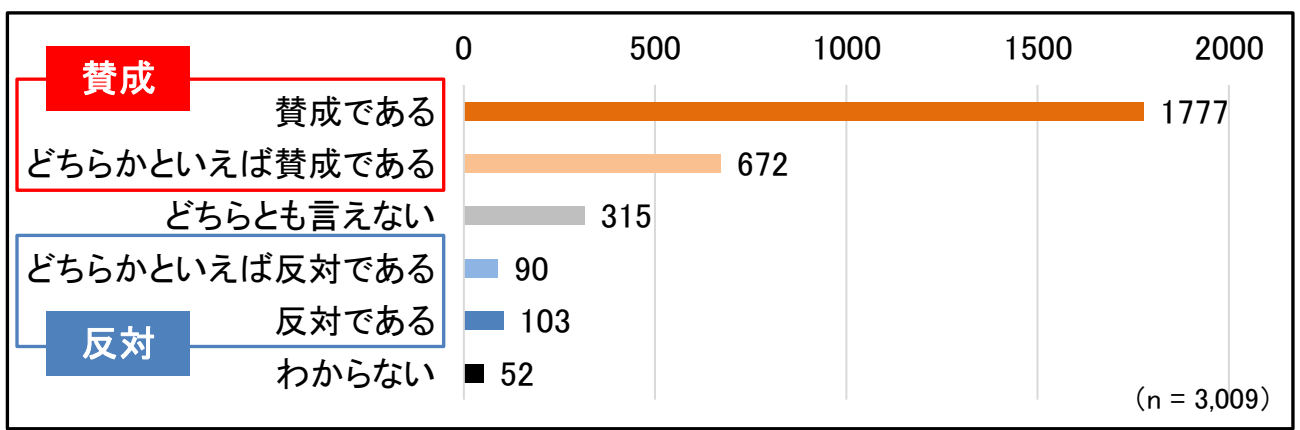
■ 除去土壌等の再生利用・最終処分に関する質問

● Q3－4 除去土壌の再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか。 **（再生利用の賛否）**

【見学前】



【見学後】



		全体	県内	県外	20歳未満・20代	30代・40代	50代・60代	70代・80歳以上	施設見学	展示見学
賛成である・ どちらかといえば賛成である	見学前	58%	67%	51%	55%	58%	63%	50%	53%	61%
	見学後	81%	84%	79%	86%	82%	82%	65%	82%	81%
見学後－見学前（理解醸成の度合い）		23%	17%	28%	31%	24%	19%	15%	30%	20%

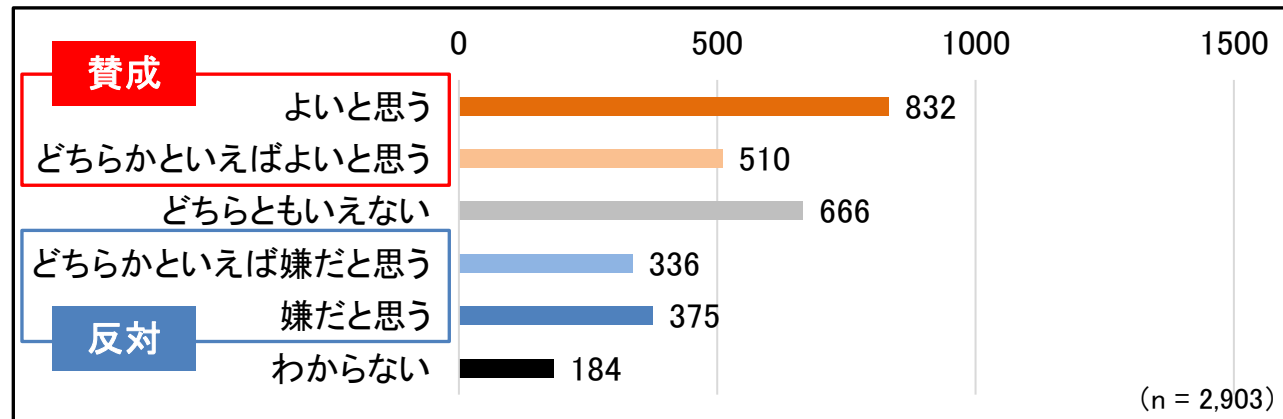
前2つの質問〔必要性〕〔安全性〕と同様の傾向がみられる。

4 アンケートの集計・分析

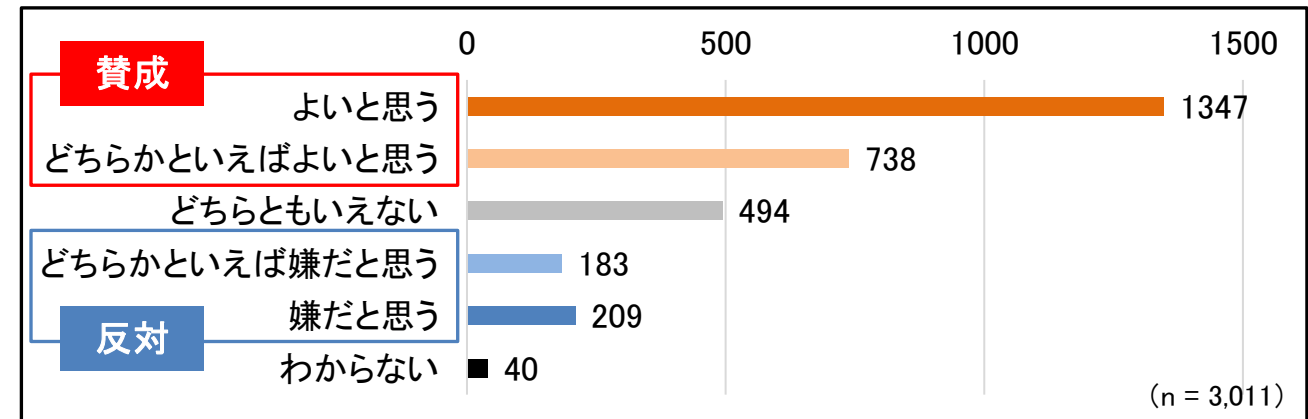
■ 除去土壌等の再生利用・最終処分に関する質問

- Q3－5 自身のお住まいの地域で除去土壌の再生利用が実施されてもよいと思いますか、嫌だと思いますか。(身近な場での利用)

【見学前】



【見学後】



		全体	県内	県外	20歳未満・20代	30代・40代	50代・60代	70代・80歳以上	施設見学	展示見学
そう思う・どちらかといえばそう思う	見学前	46%	55%	40%	40%	49%	52%	38%	40%	50%
	見学後	69%	72%	67%	72%	73%	69%	52%	70%	69%
見学後－見学前（理解醸成の度合い）		23%	17%	27%	31%	24%	18%	14%	31%	19%

見学前後の『賛成』の割合が、前3つの質問の割合より10%程度低い。

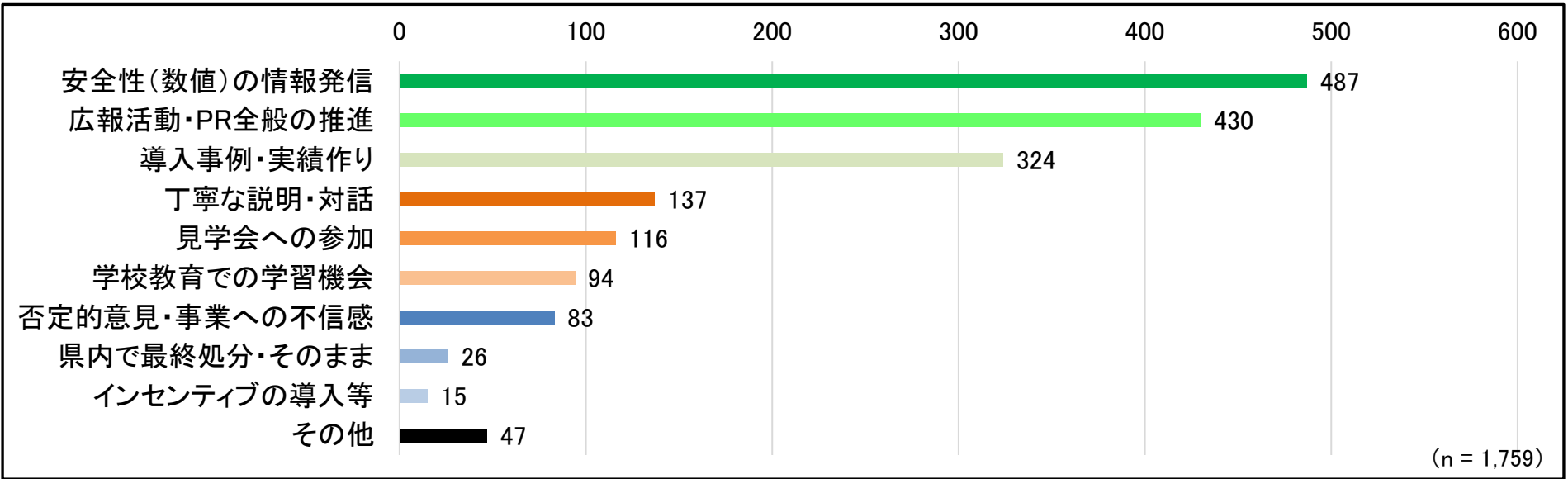
⇒ 『安全性』・『必要性』・『再生利用の賛否』の全てに『賛成』した方の割合は、**69%**（2,125名/3,066名） ※ 別集計により算出

このうち13%（279名/2,125名）は、『身近な場での利用』には『賛成』以外を回答 ⇒ 自分事となると受入れできない方が一定数いる。

4 アンケートの集計・分析

■ 除去土壌等の再生利用・最終処分に関する質問

● Q3-6 除去土壌の再生利用は、どのようにすれば理解が進むと思いますか（自由記載） **（理解醸成の手法）**



	全体	県内	県外	20歳未満・20代	30代・40代	50代・60代	70代・80歳以上	施設見学	展示見学
安全性(数値)の情報発信	28%	25%	29%	37%	28%	21%	16%	33%	25%
広報活動・PR全般の推進	24%	27%	23%	24%	25%	26%	19%	22%	26%
導入事例・実績作り	18%	20%	17%	13%	18%	22%	28%	16%	19%
丁寧な説明・対話	7%	8%	8%	8%	8%	8%	4%	6%	9%
見学会への参加	8%	7%	6%	9%	5%	7%	1%	10%	4%
学校教育での学習機会	5%	5%	6%	5%	7%	5%	3%	4%	6%
否定的意見・事業への不信感	5%	3%	6%	1%	3%	6%	20%	5%	5%
県内で最終処分・そのまま	1%	1%	2%	0%	1%	2%	4%	1%	2%
インセンティブの導入等	1%	1%	1%	1%	1%	1%	0%	1%	1%
その他	3%	3%	3%	2%	3%	3%	6%	2%	3%

- 地域
 - ・県内・県外では回答に大きな差はない。
- 年代
 - ・若い世代ほど、「安全性の情報発信」が効果的と回答
 - ・年代が高いほど、「導入事例・実績作り」が効果的と回答
 - ・70代・80歳以上の区分に、否定的な意見が突出して高い。
- 見学区分
 - ・現地の見学をされた方のほうが「安全性の情報発信」、「見学会の参加」を挙げる割合が高い。

5 今後の課題と対応

■ 認知度の向上

● 県外最終処分に関する地域別・年代別の認知度の推移 ※ 見学者へのアンケートを基に集計

年度	全体	地域別		年代別・全体				年代別・福島県内			
		県内	県外	20歳未満 ・20代	30代 ・40代	50代 ・60代	70代・ 80歳以上	20歳未満 ・20代	30代 ・40代	50代 ・60代	70代・ 80歳以上
2022	48%	60%	41%	39%	50%	54%	55%	53%	65%	65%	52%
2023	46%	64%	40%	34%	47%	57%	60%	50%	67%	74%	63%
2024	50%	71%	40%	35%	52%	61%	69%	52%	72%	81%	82%
2025	61%	75%	51%	49%	56%	72%	76%	61%	74%	84%	82%

アンケートの集計では、認知度は年々向上しているが、依然として 福島県内を含む「若い世代」の認知度が他の世代より低い。



学校の理解、保護者の承諾等課題が多いが、**まずは福島県内の高校生の見学を増やす取組**を検討していきたい

■ 除去土壌の再生利用に関する理解醸成

● 2025年3月、復興再生利用に用いる放射性セシウム濃度が環境省令によって決定

⇒ 公共事業への利用が想定されるため、実施主体となる関係省庁・地方自治体は、特に理解醸成を進めていく対象に



県内高校生同様、「**福島県内の市町村の実務担当者**」や「**市町村議会議員**」の見学を増やす取組を検討していきたい

ご清聴ありがとうございました